

長野県自転車活用推進計画ネットワーク会議（令和元年8月5日）出席者からの発言要旨

【全般】

- 自転車自体はシンプルだが、活用推進計画にあるように利用目的は多くの分野に亘っていることから、多様な分野を横断した協力が必要。
- 学校教育の現場では、安全利用に加えて、自転車の楽しさや便利さ取り込むことで活用推進に繋がるのではないかと考えている。
- 自転車とバスの共存を目指すべきだと考えている。バス事業者には、自転車利用者との接触事故に注意するよう喚起したい。
- 駅での駐輪場不足が課題になっている。市町村のみならず県からも協力をいただきたい。

【健康増進・環境負荷低減】

- 勤務する大学では、学内生協と協力して自転車整備の機会を設けたり、健康増進の観点から「脚が太くならないような自転車のサドルの高さ」といったテーマで研究することを通じて、自転車利用への関心が高まっている。
- 自転車活用のメリットやデメリット（リスク）について科学的な裏付けをもって多くの人に伝え、SDGs 未来都市として環境や健康分野に繋がる取組みをお願いしたい。

【観光振興】

- アルプスの山並みを見ながら走ることと、通学や通勤等の日常生活での利用というように両極端に分かれてしまい、それらの間が手薄に感じる。例えば、小布施から千曲川を經由して松代までであれば手軽に一日で周ることができる。レンタルで乗り捨ててもできれば、ニーズがあるのではないか。
- 飯山では、乗り捨て可能なレンタルを行っており、栄村まで行かれる方が多い。
- しなの鉄道では、サイクルトレインを企画運行した実績もある。沿線でサイクリングロードの整備を行うと伺っており、会社としての関わりを検討するためにも、進捗を教えてください。
- 北海道ではFDAとタイアップしている。松本空港でも何かできないか検討いただきたい。
- 静岡県と「塩の道」で連携している。今後、新潟県や岐阜県とも連携したいと考えているが、地域振興局レベルから県全体での取組みになると良い。

【安全・安心／保険加入促進】

- 自転車保険は、加入者の把握が困難だと認識している。保険業界としても、事故が多い学生向けに学校や家庭等へ啓発資料を配布したり、講習会を開催したりすることで、安全な自転車利用への理解を深めてもらえるよう活動したい。
- PTA連合会では、県内小中学校の約16万人の児童・生徒に保険加入の案内を配布し、加入率が8.5%まで上昇した。（令和元年6月末現在、従前は約7%）自転車保険に対する関心が高くなっている。